

A I × ホームページ制作

— 人間主体か、AI 主体か、それともハイブリッドか —

1. 要約

本稿では、企業や個人事業主がホームページ（HP）を制作・リニューアルする際の進め方を、A I の進歩を考慮して提案します。

まず「人間主体（従来型）」「人間+AI 補助（ハイブリッド型）」「AI 主体（実験的アプローチ）」の3つに整理しました。それぞれの特徴、メリット、デメリットを比較し、実務的な観点からどのアプローチが適しているかを考えます。

『HP は作って終わりではなく、更新し続けて育てていくもの』という考え方を軸にしています。

2. 背景と課題

かつての HP 制作・リニューアルは制作会社に依頼するのが一般的でした。静的 HTML や専用ソフトで構築されることが多く、更新や改善のたびに追加費用や時間が必要でした。しかし近年は CMS（特に WordPress）の普及、AI やノーコードツールの登場により、自社で手軽にリニューアルや改善を進められる時代になっています。選択の幅が広がる一方、手段を決める際に迷う原因にもなっています。以下の表では方式を 3 つと定義し、メリットとデメリットを示しました。

表 1 現状の定義

方式	概要	メリット	デメリット
人間主体（従来型）	制作会社や担当者が主導	品質・デザインが安定	コスト高・柔軟性低
人間 + AI 補助（ハイブリッド型）	WordPress + AI 補助	スピード向上・アイデア拡張	品質チェックが必要
AI 主体（実験的アプローチ）	AI が生成から実装まで主導	低コスト・高速構築	品質・信頼性にリスク

3. HP リニューアルの進め方：3つの選択肢

3.1 人間主体（従来型）

制作会社や社内担当者が主導する従来型のアプローチです。要件定義→設計→デザイン→実装と段階を踏むため、品質は安定しますがコストが高く、更新には外部依存が発生しやすい点が課題です。

3.2 人間+AI 補助（ハイブリッド型）

WordPress をベースに、人間が方向性を決めつつ AI を補助的に活用する形です。AI は記事の草案やアイキャッチ作成、SEO キーワード提案などを担い、人間が品質チェックを行います。もっとも現実的な方式といえます。

3.3 AI 主体（実験的アプローチ）

AI が文章生成からデザインまで主導し、人間は最小限の修正だけを行う方式です。低コスト・高速ですが、品質やブランドの信頼性が損なわれるリスクが大きく、現状では実験的な取り組みにとどまります。

3.4 その他の選択肢（補足）

ノーコードツール（Wix、Jimdo など）による構築や、静的サイトジェネレーター（Hugo、Next.js など）を利用する手段もあります。技術力やリソースに応じて選択肢となりますが、運用負荷や拡張性の面で一長一短があります。

4. まとめと提言

品質・安定を重視するなら人間主体、スピードと効率を求めるなら人間+AI 補助、新しい挑戦や実験を重視するなら AI 主体が選択肢となります。特に中小企業や個人事業主にとっては、人間+AI 補助がもっともバランスの取れた方法です。QCD（品質・コスト・納期）に基づいた考察を表2にまとめました。

表2 選択の目安

方式	現状	依存	コスト	納期	品質
人間主体（従来型）	旧来型	他者依存	高	遅	?（人間でもミスや抜けあり）
人間+AI 補助（ハイブリッド型）	現実的	自立	中	中	?（AI+人間チェックでも保証なし）
AI 主体（実験的アプローチ）	未知数	AI 依存	低	速	?（AI 生成はばらつき大）

注：品質はどの方式でも自動的に保証されるわけではありません。むしろ「人間がどのように関与するか」が品質を左右します。

QCD（品質・コスト・納期）の3要素はトレードオフの関係にあり、全ての要件を満たすことは非常に困難です。高いコストをかけて余裕のあるスケジュールを組んだからと言って、品質は必ず保証されるものではありません。AI が介入したとて、人間の関

与の度合いに依存するからです。制作会社に外注しても QCD（品質・コスト・納期）が全て満たされることは稀です。さらに、自社にノウハウが残らず、ベンダーロックインに陥る危険もあります。また、A Iが発達してきた昨今では「制作会社に丸投げ」が「A Iに丸投げ」に置き換わってしまう危険性をはらんでいます。

重要なのは「自ら実践する」姿勢を持つことです。

AI はまだ完璧ではありませんが、すでに文章生成や画像処理など、業務や生活のあらゆる場面に浸透しています。

まずは『人間+AI 補助（ハイブリッド型）』でホームページ運用を始め、AI を上手に活用してみませんか。

5. 参考情報・用語解説

CMS：コンテンツ管理システム。WordPress など。

ノーコード：プログラミングせずに Web サービスを構築できる仕組み。

ベンダーロックイン：特定の会社・製品・サービスに依存し、他社への乗り換えが困難になる状況。

QCD：品質（Quality）・コスト（Cost）・納期（Delivery）

6. 付録 振り返り用

表1 現状の定義（再掲）

方式	概要	メリット	デメリット
人間主体（従来型）	制作会社や担当者が主導	品質・デザインが安定	コスト高・柔軟性低
人間+AI 補助（ハイブリッド型）	WordPress+AI 補助	スピード向上・アイデア拡張	品質チェックが必要
AI 主体（実験的アプローチ）	AI が生成から実装まで主導	低コスト・高速構築	品質・信頼性にリスク

表2 選択の目安（再掲）

方式	現状	依存	コスト	納期	品質
人間主体（従来型）	旧来型	他者依存	高	遅	?（人間でもミスや抜けあり）
人間+AI 補助（ハイブリッド型）	現実的	自立	中	中	?（AI+人間チェックでも保証なし）
AI 主体（実験的アプローチ）	未知数	AI 依存	低	速	?（AI 生成はばらつき大）

注：品質はどの方式でも自動的に保証されるわけではありません。むしろ「人間がどのように関与するか」が品質を左右します。